

田口商店

カラフル畳で和モダンリノベ 春夏秋冬4つのデザイン

畳事業を行う田口商店(愛知県春日井市)は和室リノベーション「四季彩空間」に力を入れている。畳、襖、障子、建具などを使い和室をトータルでデザインする。使



▲2022年4月にショールームを作った。春をイメージした空間。ここで和をテーマにしたイベントを開催している



▲ショールームの冬の空間。襖も冬をイメージした色使いをしている

イメージ。夏は青や水色を使い涼しげ。秋はオレンジや黄色を使い暖かみがある。冬はグレーを使い落ち着いたデザインだ。カラーを選んだあとは

粋、晴、雅の3つからプランを選ぶ。粋はリースナブルなお値打ちプラン。何色かの琉球畳を使う。晴は、バラバラなサイズの畳をパズルのように組み合わせさせたデザイン。雅はフルオーダー。デザインを顧客と相談しながら決める。



田口雄介社長

同社は「四季彩空間」でのリノベを5年ほど前から始め、累計20件ほどの施工をしてきた。平均単価は30万〜40万円。ターゲットは20代後半の子育て世帯。「四季の彩りを和室に取り入れ、和室を和室にお気に入りの空間、テンションが上がるような空間にしてほ

しいです」と田口雄介社長は話す。同社が四季彩空間での和室リノベを始めたのは、和室が少なくなっていく時代の流れの中でも、和室という文化を残

していくため。「若い人にも和室を取り入れてもらいたい。昔のイメージじゃないモダンな空間を表現できることを知ってもらいたいです」と田口社長は語る。

今後について田口社長はこう語る。「築年数の古い借家を持つオーナーにも四季彩空間を提案していきたいです。若い人の間でも和室に現代風の家具を置くことが流

行っていたりと需要はあります。四季彩空間で2500万円〜くらいの売上を作りたいです」同社の2023年3月期の売上高は5800万円。

ニッカホーム関東

建築資材を使用したアスレチック 夏休み限定オープンで223人来場



▲屋根材を使用した「屋根スベ〜」。ここが10種類のアスレチックのスタート



▲壁に設置された手すりを掴みながら進む「テスリング」。これをクリアしたのはたった1人

ニッカホーム関東(東京都世田谷区)は千葉ショールームでアスレチック体験ができる施設を、夏休み期間限定でオープンした。オープンは7月23日、毎週土日に開催していた。合計の来場者は223人。

体験できるアスレチックは10種類。例えば屋根材を使用した「屋根スベ〜」。これは6寸勾配に施工した屋根材の上を走り抜けるもの。またポルダリングのように壁に設置した蛇口を掴みながら進む「ジャグチリン

グ」。これは1カ所本当に水が出る蛇口があり、体験した子供には高評価だった。壁に設置された手すりを掴みながら進む「テスリング」をクリアしたのは1人だけ。中盤に出てくる紙巻き器で脱落してしまうことが多かつた。その他「床下迷宮」や「フロアリングパズル」など住宅に使う材料を使用した。全ア



千葉・船橋営業所 統括店長 中神正詞氏

製作期間は1年。自社の職人約20人が工事の合間で製作を行った。参加費は100円。イベント周知の方法は3つ。オープンの1週間前に地域にフリーペーパーでの宣伝と、リノベの配信、7月1日からショールームのガラス面にチラシ等を貼り付けた。

「来年はまだ未定ですが、多くのお客様からまたやってほしいとのお声をいただいたので、開催したいと思っています。今後とも町の人に愛される会社を目指していきたいと思えます」(中神氏)

長はお祭りを感ぜられるように意識して盛り上げたと話す。「メガホンで『Let's! SOMENI』と声掛けをするなど盛り上げました。子どもたちの『おいしい』などの感想を聞いて、お母さんやお父さんは嬉しそうでした」

同イベントは2016年に地域住民が笑顔になれるイベントを開催したいという思いで開始した。今回で5回目。また、「おうちSDGsプロジェクト」の第8弾となる。同プロジェクトは誰にでもできるサステナブルな取り組みを実践するというもの。イベントを通じて、SDGs目標3「すべての人に健康と福祉を」やSDGs目標5「ジェンダー平等を実現しよう」などの実現を目指している。

クリエすずき建設

流しそうめんに258人参加 SDGsの一環で開催

新築事業やリフォーム事業などを手掛けるクリエすずき建設(千葉県柏市)は8月26、27日、地域住民向けに「柏♥スーパ一流しそうめん祭り2023」を開催した。感染症対策として1枠30分3組限定の完全予約制とし、2日間で子供連れなど258人が参加した。

同イベントでは屋外に20メートルの巨大そうめん台を設置し、流しそうめんを体験できる。また、かき水やスーパボールすくいなどの縁日も実施した。鈴木一功社長はこう語る。「流しそうめん祭りは、地域の活性化やSDGsの推進に貢献したい」と話す。

「おうちSDGsプロジェクト」の第8弾となる。同プロジェクトは誰にでもできるサステナブルな取り組みを実践するというもの。イベントを通じて、SDGs目標3「すべての人に健康と福祉を」やSDGs目標5「ジェンダー平等を実現しよう」などの実現を目指している。



▲「柏♥スーパー流しそうめん祭り2023」を開催した



鈴木一功社長

由を千葉船橋営業所統括店長の中神正詞氏はこう話す。「認知度や集客力をアップさせるために開始しました。普通のアスレチックとは違う、リフォーム屋らしいものを作りたかった」と。

「おうちSDGsプロジェクト」の資料などを並べた。また、音声配信アプリ「stand.fm」を活用。鈴木社長はこう語る。「流しそうめん祭りは、地域の活性化やSDGsの推進に貢献したい」と話す。

「来年はまだ未定ですが、多くのお客様からまたやってほしいとのお声をいただいたので、開催したいと思っています。今後とも町の人に愛される会社を目指していきたいと思えます」(中神氏)